

晩年

D・A・N 通信

No.13

2025. 05. 21 (78 歳 0 ヶ月) ～ 2025. 08. 20 (78 歳 3 ヶ月)

団 士郎

5/21

先週行った zoom による出版記念座談会のアーカイブを見た。二時間となかなか長い。しかしあっという間に見終えてしまった。自分が登場している時には、気が付いていないことが少なくないのに驚く。普段も渦中で話している時はそうなのかなあ。



5/22

ここ数日、気になっていた症状を片付けに、午前、午後と二ヶ所のクリニックに。共に私が案じた程のことはなく、お薬と予後の来院を指示された。一安心したところで、届いた無駄な買い物がかわいい。壁掛けのティッシュボックス。仕事場キッチンの彩り。



5/23

ストレッチの帰り道、おっ初日か！と観ることに。イントロの展開、難しいなあと思ったりしていた。三分の二くらいのところで、女性の二人連れが退席していった。トム・クルーズの映画でなかなかない事だと思ったが、分からなくもない。長尺なので私はトイレばかりが気になって..



5/24

札幌での仕事に前乗り。飛行機遅れのため、空港デスクで6月からの zoom 講座準備の続き。飛んだ時には荒天だったが、北の空は好天で大地がきれい。最近、チョコミントフェアに行ったら聞かされたが、さっぱり分からなかったの、見つけたこれを購入。ふーん、これが人気なのか。



5/26

この時期の北海道の美しさは、多様なミドリの濃淡。昨日無事にWSを終えて、楽しく会食した今日は、また近郊の未知のところを案内してもらった。ドライブの道中も、とにかくミドリにつける感じだ。

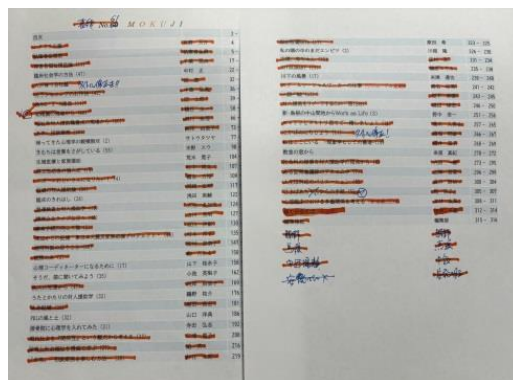


QP の頭文字の買い物記録がずらっと並んだカード明細が送られてきた。コンビニが多いが、クイックペイなんて使わないから心当たりがない。盗まれている。面倒だがカード会社に連絡、変更手続。医療機関でマイナ保険証にできますと言われ手続きしたら期限切れ。表記有効期間なのに役所に。時間泥棒め。

5/30

明日が対人援助学マガジン第61号の締め

切りだから、まだ大丈夫なのだが、こんなにたくさん原稿、執筆者短信が届いている。



5/31

サンダーバードは湖西線強風のため、琵琶湖線経由で敦賀へのアナウンス。20分以上遅れるので北陸新幹線への乗り換えは、後刻、車内放送で知らせると。京都の次の停車駅は敦賀なのだ。金沢に行くのに、何故こんなに面倒になってしまったのかと乗る度に思う。

6/1

七尾市での漫画展と講演会。駅前の展示を見てから広々としたきれいな会場に。思いがけず多くの人が集まってくださって、「故郷は要らないのか」のサブタイトルの話を一時間 40 分話してしまう。伝わったものがある感触。



6/3

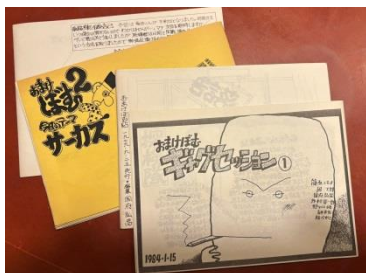
夕刻からは対人援助学マガジン第61号の編集会議に千葉、大谷がくる。それまでに届いた原稿の整理や、執筆者短信の編集を着々。しかし、その前に今月号の木陰の物語、新作第304話を仕上げておかねばならない。

日曜の夜、能登・七尾市からの帰路、そのまま仕事場に戻って着手。無事、納得の一話が完成。



6/4

漫画グループぼむ月例会。「おまけぼむ」とは、1970年代から80年頃に、印刷版の同人誌「ぼむ」とは別に作っていたコピー漫画誌。ここに名前の並ぶメンバーと今日も美味しいランチ、そして四方山話を夕刻まで。50年付き合いて、長いにも程がある。お互い成長はしてないよ、ほんま。



6/5

歳のノルマだと思っているから諦めて対応。今朝目覚めたら、気にはなっていた左足ふくらはぎが歩行を妨げる痛みがある。ストレッチの予約をキャンセルして整形外科に。仕事場か

ら100メートル以内のところにあるので、早々に出向いて待合室。16時には歯科の予約もある。やれやれ。



6/7 こんなところを通過して亀岡の学びの森へ。北村さん夫妻のところでもう11回目の家族トーク。快調に二時間話してしまった。終了後、参加していた大学院初期のクラスター院生Oさんが挨拶に来てくれた。久しぶりに話が聞きたいとHPで探して来たという。嬉しいことだ。



6/11

午後、LINE電話で大昔の院生との面談。時間はあるのだから、お役に立つならの気分だ。夕刻からは定例の草津家族勉強会。時間まで駅中のパン屋でベーコンポテトドッグを食べながら読書。「ケアと編集」はこれまで見聞きしてきた記憶が、あれこれ浮かび上がってくる本だ。



6/12

高校時代の友人女子とイノダコーヒーでランチしながら四方山話。60年以上の付き合いになるが、今日は若冲の話題に。その後、歯科の予約が入っているので待合室。暇だから来ているわけではないが、暇がなければ来ることもできない。高齢者のメンテナンス活動。



レイトショーで「ガール ウィズ ニードル」を観る。どこかで記憶に引っかかっていたタイトル。モノクロの四角い画面に展開する物語の最初から最後まで、ずっと不安と恐れが。しかもそれらは、スクリーンに漂っているだけでなく、こちらの内面にあるそれが引き出される感じなのだ。モノクロ映像、強いなあ。



6/13

楽しみにしていた鴨居玲展を「えき」美術館に。企画として発表されていたものがコロナ禍で延期になっていたもの。以前、石川県立美術館で見た絵がとても印象的だった。今日の

感想は、自分のことが好きな絵描きだなあというもの。悪口ではない。鴨居羊子の弟だと初めて知る。

6/14

午後から大阪のここでお話。終了後は週末の人の多さにうんざりして、さっさと帰路に。私の話はいつものようなものだが、ここが肝ですよと、猫のプロが言っているのに、利用者の少ない制度を思いついたりする役人の話が面白かった。



6/17

15年目になるのか、立命館大学東日本家族応援プロジェクト。今年参加のメンバーたちがこれまでの足跡をレビュー。報告を聞きながら時間の流れの中で変化して来たことを実感。風化するのではなく、時の記憶として変容し続ける大災害の記録だ。昨今の世界のきな臭さも、歴史の中にある記憶ではないか？繰り返すのはよそうよ。



6/20

膳所駅は金曜の朝なのに混雑。JRはまだどこかで何かあったようだ。そのまま京都駅でも混雑が著しい。インバウンドもあるが、今日のように暑いとウンザリ。弘前WSのために前日入りだが、伊丹空港のゲートまで来たら空

いていてホッとする。同じ地球上なのにここにはドローン攻撃も、ミサイル着弾の不安もない。



津軽半島龍飛岬付近をドライブに。函館に向けて新幹線が走って、在来線は災害後、復旧の目処なく廃線とか。海はというわけだが霧。義経寺から港町を見下ろす。二度目になる鶴の舞橋で岩木山をバックに。長く来ているのに弘前、五所川原、つがる市など、位置関係がピンときていない。吉幾三「津軽平野」が頭の中で響く。

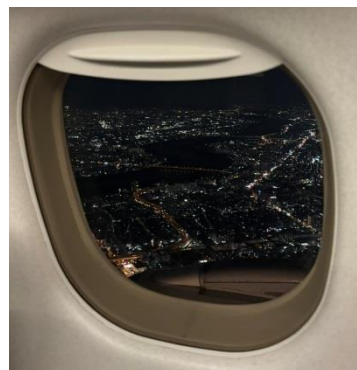
6/21

最終告知。「家族理解の教科書 graphics」の zoom 講座がいよいよ6月27日開講です。教科書を作ったのだから授業もという流れですが、楽しく聞いていただけるものにしたいと思います。アーカイブもあるので、平日昼間の視聴勉強も可能です。ぜひ、ご参加ください。



6/21

海外旅行からの帰路、戦争の影響で迂回路をとったなどと知人の物騒な sns が。昨日、青森からの帰路、穏やかな伊丹上空の機窓。そんな時に、相変わらず連載漫画の下書きをしたり、zoom 家族講座の準備をしている。こうしていられる平和を確保し続けなければならぬのだが、そのために直接出来ることが少ないのが残念。



6/24 今週はいろんな人が訪ねてくるので、早めの対応を心がけていたら、もう今月の新作、第 305 話「誰が決める」が仕上がってしまった。何を決めるか、誰と決めるか、その混乱の話だ。



6/26

溜まっていく古新聞の山に弱りきって、長年購読し続けてきた新聞を止めた。デジタル版の契約をして記事は読んでいるが、やはり新聞の感じがしない。何度か配達版を再開しようかとも思ったが踏み切れなかった。そんな時にこれを知った。新聞がそのまま見られる紙面ビューアー版。何かが復活する感じがした。

11:40

5G



6/28

昨夜は zoom 講座の 1 回目だった。大勢に参加していただいて、「家族理解の教科書 graphics」をテキストに、できるだけ授業風にすすめた。そして今日、その資料と録画が配信されたので、次回準備のために見た。ところがその間に、居眠りをしてしまった。これはいかん！と思ったが、イヤイヤ、まさしく授業ではないかと得心した。



6/29

今週は火曜、木曜、土曜と長い付き合いの人達が訪ねてきてくれた。28 年前、京都市内にワンルームの仕事場を設定したのは、こんな風に知人が気安く会いに来られるようにとの目論見だった。そしていい歳になった今も、手土産片手にいろんな年代の来客がある。嬉しいことだし、少しは先見の明があったと思う。



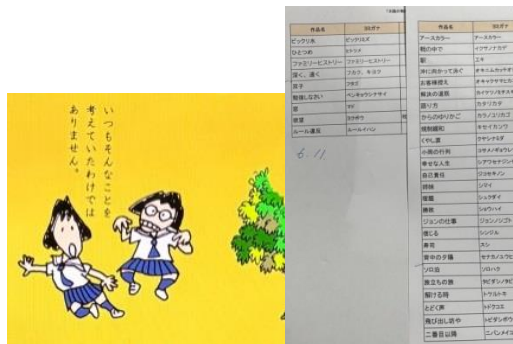
7/1

週末の浜松 WS の準備ができたので、20 時からのレイトショーで「国宝」を観た。三時間なのでトイレが気になったが、大丈夫だった。でもそれより、平日夜の回が満席で、23 時過ぎにこんなにゾロゾロ帰路に着く人たち。あちこちで話題にしているのを耳にする。



7/3

現在、掛け軸版木陰の物語は 35 作品ある。その中から今、11 作品と 6 作品が能登半島と福島県巡回展に動いている。作品が働いているのだから、私も仕事しなくちゃと、新掛け軸制作を始めた。これは三十六作目「成人の日」の一コマ。気に入った絵は対人援助学マガジンの表紙に使ったりもする。



7/4

仕事場を 5 時半頃に出て、早めの夕飯を済ませ、カフェでこの雑誌を楽しんでいる。70、80、90 年代の映画の話がいっぱい。好きなイラストレーターの表紙も、登場する映画タイトルも、活発に観ていた頃のものばかり。再見リストが出来そうだ。思い出したことがいくつもあった。



7/5

大混雑の京都駅をぬけ、新幹線名古屋乗り換えで浜松市へ。H くんが世話人で浜松 WS 五時間。13 回目だとか。そして夜はこれ。旨い！浜松の鰻屋は相当あちこち行ったなあ。



7/6

H 君のガイドで浜松近郊の興味深いところを二箇所。木下恵介記念館では山田太一さんの若かりし頃の写真を数枚見た。天龍地区の秋野不矩美術館は藤森照信建築の建物から面白い。最近、良いなと思う日本画家の作品はそれぞれ個性的。小森均は知らなかったが力強く面白い。



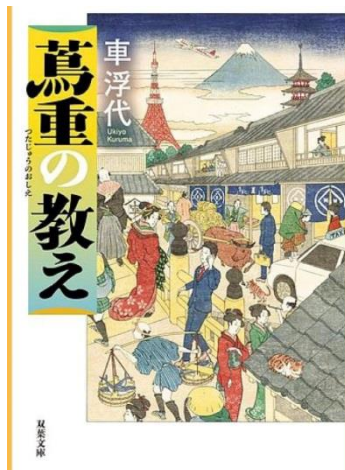
7/7

七夕。誰にも会わず、この先のプログラムの準備スケジュール作り。あれこれあるので点検しつつ直近のものから勤しむ。草津 ws、zoom 家族講座の二回目。京都国際社会福祉センター家族療法三日間 WS、zoom トークライブ 2025、盛岡(岩手)ws、立命館大学院二日間 6 コマ集中講座。そんな合間に聴き終えたのはこれ。



7/9

午後、遠方から友人が来訪。ランチして夕刻からの草津 WS に出向くまでの時間、仕事場であれこれ楽しい雑談に花が咲く。移動中に今聴いているのはこれ。発売時になんとなく手を出さなかった記憶が残っていた。かなり面白い。NHK大河ドラマ「べらぼう」は観ていないのだが、ちょっと気になる。草津プログラムは今期最終回。次は 10 月からスタート。1999 年から継続中だ。



7/13

昨夕刊にこんな記事を見かけた。「こうの史代マンガ展」、京都で開催中とある。知らないなあと思って調べると福知山だった。昔、家族と 11 年も住んでいた街。今、こうの史代さんが住んでいるという。観に行こうと思ったが、漫画の原画展って、あまり充実感がないことも多いしなあ・・・と懸念も。

暑い日曜だが、行くなら今日しかなかったので、泊まり込んだ仕事場を出て久々に福知山に。

JR 二条駅前には立憲民主党の演説会に野田代表が間もなく到着だとスピーカー音がうるさい。そうだ参院選、若者の関心が高いのだ聞くが、良き選択をと願う。



7/14

楽しみにしていたものが 2 ヶ月ほどかかって届いた。60 年近いファン歴のカッサンドル。10 年程前に埼玉で観た大ポスター展には感激した。中でも好きで、仕事場玄関にポストカードをピンナップしている作品をネット販売で見つけたので注文してあった。自宅ギャラリーゾーンが充実。





7/15

面白いことを発見。今年五月二〇日、同じ日に発行された二冊が、共に本の途中で用紙をグレーに変更してアクセントを。



7/16

期日前投票にいつもとは違うここに来てみた。結構な人が来ている感じがする。私のように車に乗らない人間は、移動ルートをいつもプランして動かねばならない。その間に、にわか雨もあり、なかなかである。投票後、湖西線ルートで京都に来てストレッチに。そして馴染みの店でランチ。このあとは仕事場で週末、来週のあれこれを準備。



7/18

本日から三日間のプログラム。京都国際社会福祉センターの家族療法ワークショップ 2025step1。全国各地から 36 名参加は会場からすると満杯。H、C、S と私がスタッフ。30 年以上、いい意味で変わり映えのしない講座ができている確信。



7/20

WS 三日目。最後の相互フィードバックの時間を俯瞰で。終始、みんな活発で意欲的だった。毎回のところもあるが、ちょっとしたことで今回、なんか面白かったなあと感じたりする。何故かはわからないが、ライブでやっている、そういう瞬間があるよねえ。みなさん、ご苦労様。



7/21

俳優座劇場がなくなった記事を見て思い出した。大昔、いつ頃だろう。NHK のドラマ「事件記者」で滝田祐介という役者が大好きになった。俳優座に所属とかで、東京に行く機会を見つけて劇場に足を運んだ。演目が何だっ

たか忘れたが、サーベルを腰にした役だった。それに足を引っ掛けて彼が転倒した。ドキドキしてしまって客席でうろたえた。それ以外は何も覚えていない。



7/23

今夜のトークライブ、準備にいろいろ考えた割に出来はまあまあだった。そう感じた理由は最近、話すのが下手になってきた気がするということと関わっている。軽やかさが減った気がしたので、意識してみたのだがバラバラな感じになってしまった。聞いてくれた人がどう感じたかは分からないが。



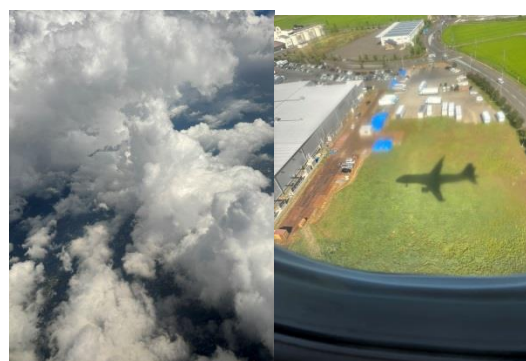
7/24

マンション管理組合とか、地域の自治会活動などに関心がある。積極的なわけではないが、役員とかニュース発行にも関わった。大規模マンションの長期的管理など関係なかったが、これを読んでみていろいろ考えた。管理費の不正流用とかの話だろうと思っていたが、かなり違って面白かった。



7/25

雲が湧く大阪から機影がくっきり日差しの盛岡へ。年に一度来るようになって3年。青森、山形、そして岩手も定例化している。しかし暑い。北海道で四十度かもとか言っていたから、東北は涼しいなんて昔話。



7/26

盛岡WS開催。初参加が半分以上で若い年代が多い。家族理解の教科書 graphics を手にしてくれている人がたくさん。児童相談所の人たちが多勢来てくれた。盛岡市勤労福祉会館の大ホールを22人で使用。他の適当なサイズの会議室は空いているが冷房がないのだそう。東北の古い建物のアルアルだ。



7/27

盛岡まで来ているのだから、知らないところ
にと思ったが、観光名所は結構みている。そこ
で県立美術館に。まず建物が素敵だった。常
設展示が船越桂の新収蔵品のお披露目。な
かなかいい。企画展も見たが、Perfume コス
チューム展なんて名前くらいしか知らない爺様
にはデパートの婦人服売り場と同じだった。ア
チャー



7/29

昨日、今日の二日間 6 コマ、立命館大学茨
木キャンパスで家族療法の集中講座。8 人(7
人)の学生さん相手に、家族理解について、で
きるだけ具体化の技術をエクササイズ。だが、
つつい話してしまう。木陰の物語も含めて、
家族について、まだ子供時代しかない多くの
学生に届くものは何だろうか。



7/30

audible でこんなに楽しい読書？いや聴書
も珍しい。「僕には鳥の言葉がわかる」だって
鳥の鳴き声が本文中の解説に含まれていて
聞けるのだから。書店で見たら巻末の QR コ
ードで聞ける工夫がしてあったが、これは
audible の勝利だなあ。平易な文章なのだが
若い研究者のワクワクがそのまま伝わってき
て楽しい！



7/31

勝手に届く写真アプリに記憶を呼び覚まされ
る。そうか 5 年前になるのか。抗がん剤点滴
投与を受けながら自宅で末期がん療養中だっ
た妻が吐血、下血で倒れた。驚いたが、シャ
ワーと着替えをさせてから救急車を呼んだ。そ
の刻々を撮っているのだからパニックってはい
なかった。本人にどうして欲しいかを聴いて対

応していた。あのコロナ渦中に病人を抱えているのは、制限も多く大変だった。そして妻はこの 12 日後に亡くなった



8/2

昨夜は家族理解 zoom 講座の三回目。調子が落ち着いてきたかな。今日は暑い中を京都、聖護院御殿荘に出向いて、日本生活教育連盟研究会で講演。程よい人数に熱心に聴いてもらえたので調子をあげすぎ。直らん癖だが、まあ良からう。新刊も家族の練習問題第 9 巻もたくさん買ってもらえて嬉しい。



8/4

昨晩は遠方からの来客あり。今日も午後から長い付き合いの旧友 2 人が来訪。四時間ほど話して、場所をかえて夕飯。よく利用するスペイン料理屋でおまかせメニュー。タパスを撮っただけで、後は食い終わるまで気づかず。楽しい三時間のディナータイム。お爺が 3 人、話の種も尽きずによく喋るもんだ。



8/5

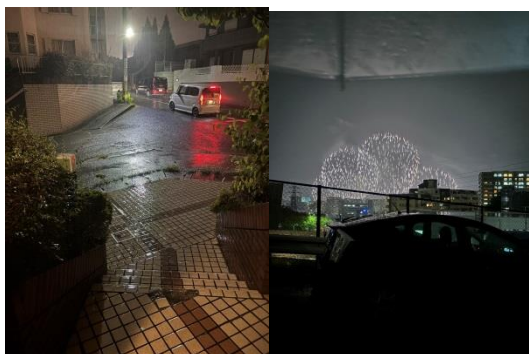
一つずつするべき事をして過ごす。連載のネタがだんだん煮詰まってくる。長らく経験したことのない感覚だ。やはり物を作り出す力は落ちてゆくのか。ならば、変化を考えることだろう。こういう時には、幅を広げた新規企画を自分に課すことかな。思ったようにいかないことがチョコチョコ出てくるなあ。



8/8

18 時頃、相当な雨音がしていた。今日は琵琶湖花火大会なので、人出を避けて自宅に引っ込んでいた。どうなるのか？と思いつつ、夕飯を食べていると花火の音が。雨は止んだのか？と外に出たら、ザアザア降っている。雨の花火大会なんて記憶にない。住宅地内の見

えるところまで傘をさして行ってみたが、傘の雨音が激しい。



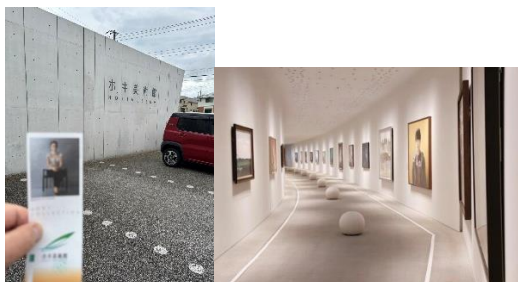
8/9

今日は東京神田で定例のワークショップ。16人の参加で賑やかに楽しく学んでもらう。本日の会場セッティングには演台があって、立って講義する流れになった。最近を着席で進めることが多かったんだが、まあこれでやってみるかと思った。その結果、えらくピッチが上がった。夏休みの新幹線は満席だった。



8/10

バス停には誰もいない JR 外房線土気駅前。噂に聞く写実画ばかりのホキ美術館に来た。



思いがけず入場者が多い。人物画が主でまるで写真みたい、なら写真でいいわけだから。

作家によって超リアルティストが異なる。撮影禁止だが、昆虫の絵が素晴らしかった。

千葉から京葉線経由で東京駅に戻ったら、ステーションギャラリーでこれをやっていた。覗いてみたら、これまで知っている藤田嗣治とは違った様々な姿を知ることになった。

大昔、秋田の平野美術館に展示されていた二十メートル超えの「秋田の行事」をみて以来、いろんなところで作品を目にしてきたが、今回の写真はなかなか面白い。



8/11

明日は妻の命日なので竹中師がお参りに来てくれる。お花をと思ったが、あまり法事っぽく白いのもなあと思って、花屋さんと相談してこんなのにした。

家にいるので久々にスロークッカー調理。貰い物の美味しそうな秋刀魚の佃煮があったので、白だしで大根を煮込んで、合わせて二時間コトコト。大根がメチャ美味しい。



最近、Netflix で楽しめたのはこれ。顔の見えない相手を声だけで選び合って、ボーカルバンドを作っていく米国のオーディション物だ。でもどうして、世界配信の「ビルディング ザ バンド」を「ブラインド・バンド」なんてタイトルに変えるかなあ。



8/15

たまにはこんなものにも手を出してみるかと思った。一部を読んだだけだが、今へのきっかけをもらったところに重なる、とても興味深いインタビューが。そして、そんなことには関心がないから距離をおいた認識も。私はやはり現実場面の中程を歩く人々に目が向いた、実用性 1 番の人間だ。



8/16

お盆の人出と暑さから逃れながら。これは Kindle で読もうと思った本があったので、久々に本体再購入。対人援助学マガジンにもう一本連載をしようと思い立って着手、快調。

で、仕事場に籠っていたら、自宅にお花を届けていただいたのを受け取り遅れ。大文字の混雑時間帯を避けて夕刻までに帰宅して、クール便受け取り、大丈夫だった、ホッ。



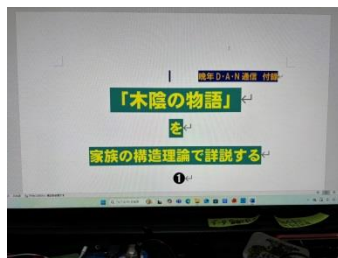
8/18

昨年ハマっているブドウ、藤稰(ふじみのり)。美味しさなんて好みだからゴタクを言うこともないのだが。大粒を口に入れて噛むと果汁が広がる。皮と実の間が本当に美味しい。一度に食べないで、冷蔵庫に入れておいて、前を通るたびに一粒口に。すると1日に何回も何回も美味しい。



8/19

孫と帰省の予定だった娘が発熱でコロナが判明。残念ながら中止になった。一週間空けてあったので、文字通りスケジュール空白の夏休みになった。なので月末から月初めにかけての予定を前倒し作業。マガジンの新連載も仕上げた。次号 62 号から連載します。ご覧ください。



8/20

予定がなくなったので、ならばと「ジュラシック・ワールド」に。スカーレット・ヨハンソンが素敵だった。お昼を食べて、新作原稿に取り掛かろうと、いつものタリーズに入ったら、久々の中村正さん。なかなか会う機会がなかったが、京都はこんな偶然があるくらいに狭い街。しばし歓談。



「木陰の物語」

を

家族の構造理論で詳説する

1

団士郎

こんな事を今更ここで述べるまでもないことかもしれないが、書いておく。

物事の判断において、右が成功で左が失敗という分岐点があり、そこで有効に機能できる専門家がいるのなら、誰もがその人に頼りたくなるのは分かる。しかし実際は、右を選んでも、左を選んでも茨の道であることが珍しくない。だからといってどちらも選ばず、モラトリアムなどと言ってすむ時間がそうあるわけではない。選ばないままという選択がもたらすその後の人生への影響が結構厳しいことも人は気づいている。

正解があるものなら、教えて貰いたいと思う気持ちは理解できる。しかし、人生にそんなものはないことが明らかである時点で、私達は右を選ぼうと、左を選ぼうと、苦勞も楽しみもある道を歩み続けるのだということは分かっている。

どちらが良いかという選択は、どちらが正解かの選択ではなく、どちらがその後の己の歩みににとって有益かの課題のようである。無論、この有益さもその時点でどうかと言うことなのだが。十年、二十年後に初めて分かる選択の正しさも存在するのだから。そう考えられたら、誰かに答を教えて貰いたがる自分を吹っ切ることが出来るのではないだろうか。つまりそれは、細分化された専門性の話ではなく、人生の選択という、とても普遍的で、脈々と繰り返されてきた人の生の個々人の課題だからである。

何も起こらない人生などないことを噛みしめ、「何故、自分だけ…」と思ってしまった時には、「そう語るほどに自分は、他者の人生を理解しているだろうか？」と問いかけてみると良い。そうすれば、上手くやっている人を「運のいい人…」 「そんなやり方を知っている人…」などと簡単に考えてしまっている自分の浅はかさに思いが及ぶだろう。何も起きなかった人など希なのだ。

自分のことしか考えられないから、自分が一番大変だと思うのである。生きてゆくとは…が考えられたら結論は、人はそれぞれみんな大変だ。そんな中で皆、よくやっているなあということになるだろう。

では人が選択を迫られたときに、持ち合わせていたい力とは何だろう。それを私は、家族の構造的特徴を踏まえた自己理解力と家族理解力だと考えてきた。

自分(達)はこれまで何をしてきたのだろう。その結果、どういう状況を形成しているのだろう。これを普遍化して定義づけられると、対応策にも類型化が可能になる。

しばしば人は、「私のことを、他人に分かるはずがない」などと呟く。しかし、そう思っている人が、自分のことだけは分かっていると考えるのは思い上がりか誤解だ。自分の思うようには他人は分かってくれないが、自分のことも上手くやれないあなたよりは、分かっているかもしれない。こう考えるのが合理的思考というものである。

右か左か、歩み始めたら又、右か左か、これを繰り返していると、いつまで経っても左右の分岐点である。丁半博打で永遠に勝ち続けたいと願うような荒唐無稽さを人生に持ち込むことになってしまう。私達はそんなことをしているのではない。

右を選ぼうと左を選ぼうと、そこには意図と意味が発生する。それは新たな展開への扉である。期待したものになるか、思いがけないものになるかはやってみなければ分からない。分かるのは、自分はどのような選択をする人間であるかだけである。そして結果(本当は、途中経過に過ぎないのだが)は出る。

そこに個性(癖、パターン)があることが分かったら、問題の困難さや複雑さではなく、立ち向かう側(自分)の癖、傾向を読み取ることは可能だ。繰り返される失敗があるのなら、根本的原因など考える必要はない。明らかにになった失敗のパターンを変えればいい。

一番分かりやすい変更は、何とかしようと繰り返してきた努力を止めることだろうか？ 頑張って何とかしようとするから失敗に落胆するのであるとしたら、何もしなければ落胆もない。さらに、十分考えて下した結論に基づく行動であったが故に、失敗のダメージも大きくなる。だったら、よく考えない思いつきで行動してしまえばよい。結果が駄目でも、「まあ、よく考えもしないで思いつきで動いたのだから、仕方がないか」と思えばダメージはない。サイコロの目で決めていれば、深く反省する必要もない。あらゆる事態は流転する。

「下手な考え休むに似たり」と昔の人は言っているにもかかわらず、日頃あまり考える習慣のない者ほど、困った時だけ真剣に考えている気になりやすい。そんな考えにいかほどの値打ちもないことは誰もが分かっているが、本人だけは気がつけない。そして悩むのである。

軽はずみな行動変化は、よく考えた末の行動が起こす失敗と比較して、罪は軽い。ダメもとと思える軽さは、変化のチャンスたり得る。

と、まあ、こんなことをクドクド述べておいて、ぼつぼつ始めるのがこれだ。 **家族理解入門—家族の構造理論を活かす—**(中央法規出版)の「続編」として、『**家族理解の教科書/Graphics**』を今年、2025年5月に発行した。一冊目は家族の構造について、例を挙げながら細かく述べた。実際の家族を提示して、この何処に構造的特徴が見られるかを解説した。「構造理論」の理解のために多くの家族に登場して貰った。

二冊目では、マンガ『木陰の物語』の中に発見できる構造的特徴を読みとれるよう、「境界」「サブシステム」「パワー」のキーワード順に選んだ物語を見て貰って解説をした。

そして対人援助学マガジンの連載企画として第三弾にこれを持ってきた。二冊目同様に『木陰の物語』を見て貰って、そこに含まれた家族の構造的課題や論点をあれこれ考える。私はこの家族の課題は何であると考えたのか。そして、どんな取り組みをプランしたのかななどを述べる。

家族は千差万別で、同じケースなど一つもない。だから処方箋もみんな異なるのが筋である。しかし同時に家族は結構似通っているとも言える。その辺の所を明らかにしていけたらと考えている。



古い友人からメールが届いて、
ちよつと時間を
取って
くれないか
という

珍しいことがあるものだ、
約束をした



「聞きたいことが二つあって、
一つはまあ
良いこと
なんだけど…」
と話し始めた。



三十三歳になる次男が突然、
「赤ん坊が生まれることになつたから結婚する。
ついては相手の親に
会って欲しい」
と言った。



告げる時

in the shade of family tree

木陰の物語



団 士郎

十八歳で職人に弟子入りし、
今は独立して二人ほど人も
使って仕事をしている。



「目出度いじゃないか」

「まあそうなんだけど、
順序が違う…」

と古めかしいことを言う



先方に会ったところ、
奥さんを早くに
亡くした、
父と姉妹
三人家族の
長女だった。



東北出身の彼女は、
まだ先のことだが
出産は、自分の
身内のいる
故郷で
したいと言っている。





「じつは最近知り合いで、
初産に実家に戻って、
そのまま帰って
こなくて離婚した
者がある。
そういう事って、
あるのか？」

そういえば私も最近、相談室で
三十代前半の男性から受けたの
が、まったく同じ中味だったこと
を思い出した。

多くはないけど
ない話でもないなあ

うちも
そうなのたり
しないかな...

そんなことまで
考えなくて
いいよ!

それより
ふたっ目は
なに?

「三十六歳の兄貴が独身で一緒に
住んで居るんだけどね...」

「まじめな奴なんだが、
転職歴が三回あって、
今の仕事は四つ目なんだ」

その彼が、
「弟の嬉しい話の続きで
悪いんだけど...」
と話し始めたという。

そもそも、そんな風に
家族四人が揃って話をしたことな
ど二十年以上、記憶にないという。

父親である彼は
大学卒業後、
大手繊維関係
の会社に勤めた。

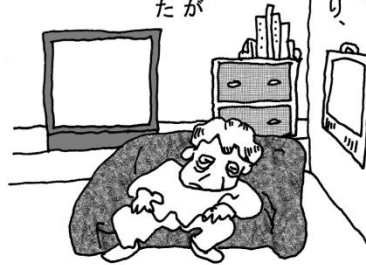
しかし長いあいだ、
地方の子会社に
出向を命じられ、
息子達の十代半ばから
二十代前半は
単身赴任だった。

本社に戻れたと思ったのもつかの
間、レストランにあう。

そして再就職した会社の定年退職
が六十歳の誕生日だったそうだ。



その家族会議が行われたのは、彼が無職となり、雇用保険の短期給付を受けながら、実際は在宅していることが多くなり始めた矢先だった。



長男は新しく働くことになった会社の新人研修で忙しくしていたらしい。



ところがそんな業務中に、時々頭痛がして注意が飛んでしまうことがあり、ミスを重ねて不安になった。



街中で「心療内科」の看板を見つけて受診し、「軽い鬱病」との診断書をもらって、退職を決心し、既にそれを郵送し、電話で退職の意も伝えたという。



体調の異変を感じた息子なりに、受診も含めて行動しているのだが、何か適切ではない気がしてならないという



診断結果について今ここで何も言えないが、確かに、不安からの受診、そして退職願と、少々違和感を感じさせる。



多くの場合、こういう経過には、親身になってくれる相談相手や意見が登場するものだ。



間違っているとは言えないかもしれないが、大人の用心深さというか、周到さに欠けている気がした。



父親としてのお前の姿が見えないのよな





長男も高校卒業後、
進学は希望せず、
自分の意思で
就職を決めた。



両親は共に
大卒だから、
兄弟二人とも
この選択も
めずらしい。



最初の会社は倒産、二つめ退職は
不況の折、人員整理の対象を高卒
に絞られてのことだという。



話を聞きながら、
十八歳から一人で
頑張ってきた
息子の疲れは
もつともだと
思えてきた。



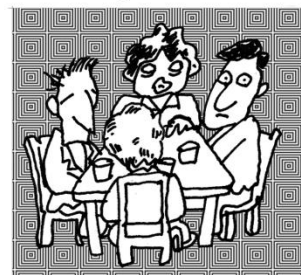
思春期ずっと、
不在の父と
多忙な母の下で、
誰にも迷惑をかけず、
一人で頑張っている
青年が目に見えんだ。



そんな彼が、
父親が定年退職を
迎えたと同時に、
自分も退職して
自宅にいる。



そして初めて、
自分のことを
家族の前で
打ち明けている。



20年ずいぶんだ
かもしれないが、今なら
家族に話せると長男は
思えたんじゃないかな。
知恵を出して父親を
してやれよ



そう言う、彼は笑いながら
涙を拭いた。



家族の構造理論で詳説する

境界崩し

思春期から付き合いのある友人の家族の話である。一つの課題、出来事で知る事になった家族ではない。



里帰り出産は一般名詞的に耳にする。私の妻も初産の時は、早めに実家に戻って近くの病院で出産した。

誕生の知らせを受けて病院に駆けつけ、その後もしばらく妻の実家で過ごす母子を訪ね

た。そういうことは一般的だろうと思っていた。

あれから半世紀近く経っているので、時代の常識も変わったかとも思う。しかし子どもの誕生や、それにまつわる新米ママのてんやわんやに、それほどの変化があるとは思えない。

登場した話題を時代の特徴と言って良いかどうかは分からなかったが、事象としては私も知らないことではなかった。

家族の構造的にこの問題を考えると、実家と夫婦の家族の「境界」問題である。昨今、いつまで経っても実家との繋がりが、不必要に強い人たちがいることが気になっていた。「内外の境界」という言い方をするが、ここがルーズだといつまで経っても独立した家族になれない。困りごとがあると直ぐ実家なのは、生家の親子関係がいつまでも強すぎるのである。

そしてどのような心情なのか、実家に里帰り出産で世話になった娘が、その後も結婚生活よりも、実家での子育て継続を望むという。その結果、離婚という結果になったとしても止むなしと、娘も両親も思っている。この心性は子ども側よりも、実家の両親の特徴として見られやすいと聞く。新しい人間関係を築いてゆくのは骨の折れる仕事だ。そこで慣れ親しんだところに戻ってしまうのはあるタイプの家族のクセのようなモノだ。

出身家族のジェノグラムを描かせて貰ったら、子ども達が成人して就職、結婚等いろいろ在りながら、結局皆、実家に戻っていたりする人達がある。「凝集性」が強い家族特徴だと説明したりするが、この反対のバラバラな家族もある。思春期には、前者は心身症系の課題を、後者は非行系課題を持ちやすいと認識されている。

とはいえ共に、それで上手くいっているなら、口を挟む必要はない。上手くいっていないの

なら、その特徴の反対を実行してみることだ。
そこに意味のある変化が生まれる可能性は高い。

そもそも、そんな風に
家族四人が揃って話をしたことな
ど二十年以上、記憶にないという。



合同家族面接

家族療法を学び始めた頃、全家族面接をするのがとても魅力的だった。家族療法＝家族全員との面接ではないが、それまでの長い歴史で「個別面接」しか想定されていなかったカウンセリング世界に、『皆さんでいらして下さい』はどうなるのだろうと、とても興味深かった。

その連想が友人の話から浮かんできた。ことさら親子の対話などという必要もないが、息子二人が成人する経過に、一家四人で話し合った記憶が一度もないというのはやはり特徴的だ。

長期間の単身赴任という、当時の会社人間の宿命のような所もあった。だが、それほど尽くした会社でも、景気の先行き不透明さにリストラを敢行する。友人はそこに巻き込まれ、それまでは考えたこともなかった選択をする。

結婚が早く、同僚達の家庭と比較して、子ども達も大きくなっているというので、自主退職を申し出ずにはおられなかったと言う。

まさに個人(家族)の生活が、社会(システ

ム)の動向に翻弄されてきた。こんな歴史を辿った父子関係を、パーソナルな要因だけで解釈してしまうのはピント外れだろう。

長男の今回の退職は父と同じ、不景気による人員削減で、高卒男子従業員の一律退職という乱暴な結果だった。

大卒だったら運命は違っていた。友人夫婦は大学時代に知り合って結婚しているから、二人の息子が共に高卒で仕事に就いているのは、当時の時代背景からすると友人達の間にも違和感を感じていた者はあった。

そして今、仮採用の会社で、調子を崩して、悩んだ結果、一人で心療内科を受診し、退職届を郵送している。どうして誰にも相談しなかったのだろう。出来なかったのだろうか？

診断結果について今ここで何も言えないが、確かに、不安からの受診、そして退職願と、少々違和感を感じさせる。



私達の多くは、誰にも言えないと思うような事態に遭遇することがある。そして、他の誰にも言えないけれど、この人にだけはと思える人や場所も持っていたりする。

36歳で職を失った独身の息子。高校卒業後、18年も頑張って働いてきた彼が、誰にも言えずに失職しているのを、個人の判断・選択だとは言えないだろう。身近なところに、リストラに遭い、再就職して、そこを定年退職した父親が居たのにである。

こういう経過を聞くと、ずっとそんな風に生きてきたのだろうなあと思う。父もいるし母もいる。自営職人である弟もいる。しかし、このような結果に至ってしまうまで、誰にも言わなかった。

言えなかったのは長男かもしれないが、それより、こんな状態にあっても言わなかった息子のイメージする家族を考えると胸が痛んだ。

長男が初めて、「弟のめでたい話の後で悪いけど…」と語り出したと聞かされたこの事態に私は、「何が何でも、おまえが力になってやらなきゃ、駄目だろう！」と思わず大声が出てしまった。

36歳になって初めて、家族に苦しい胸の内を吐露している長男に、友人が父親として果たしてやらなければならないことがあるだろう。

私は会ったこともない彼の息子に、カウンセラー稼業の人間として、それらしいアドバイスをする気にはなれなかった。

決心

誰に何を話すか？親には何を話すか？子どもに何を話すか？兄弟姉妹には何を話すか？

そんなことに一般的な答えがあるわけではない。それは家族それぞれ、親子それぞれだと言える。

しかしそのそれぞれさは、それぞれだから良いとだけ言っているのではない。それぞれだから、上手くいっているのならそれで良いと言っている。上手くいっていないのなら、それは習慣だったとしても変えた方が良い。

この底流にあるテーマが「決定」である。個人にも、家族にも、組織にも「決定」には癖が

ある。繰り返されているパターンといった方が良いかもしれない。それはなかなか変えがたい。

彼の息子は、上手くいっていないと分かっている、家族に相談する決断は出来なかった。相談したからと言って、結果がどうなったか分からないというのは「結果」に引きずられすぎている。

どうしよう…と途方に暮れたとき、一緒にさまよってくれる家族は、決して無意味ではない。連れだってさまようのと、一人さまようのは違う。息子は両親と一緒にさまよってくれるとは思えなかった。

あるいは、親に負担をかけるようなことが出来なかった。親がそれを負担に思うだろうなどと、いつから思うようになったのか。親に迷惑をかけず、自己責任で生きてきた息子。このような思春期の事例に少なからず出会ってきた。それを私は親子ともどものパワー不足だと思う。

ないパワーを指摘されたところで、出ては来はしない。どうすればいいかを専門家としてアドバイスが欲しいなどと言っていないで、おまえが息子の力になって一緒にさまよってやれと言った。

その真意が友人には届いたのだと思う。「頑張ってみるわ！」と涙を拭った彼が、グランビア京都のティールームで立ち上がった。

*

そしてその後のことは、何も聞かなかった。ずっと後になって、私達の仲間内では彼が一番早く亡くなった。

その告別式で、喪主である長男の挨拶を受けた。元気でやっているんだ…と思いながら焼香をした。

2025/8/25